

報告書（データ集）への放射能濃度の推移（グラフ）の掲載について（案）  
（機器分析及び放射化学分析）

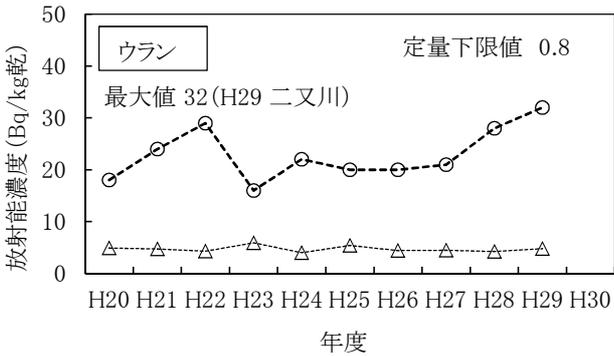
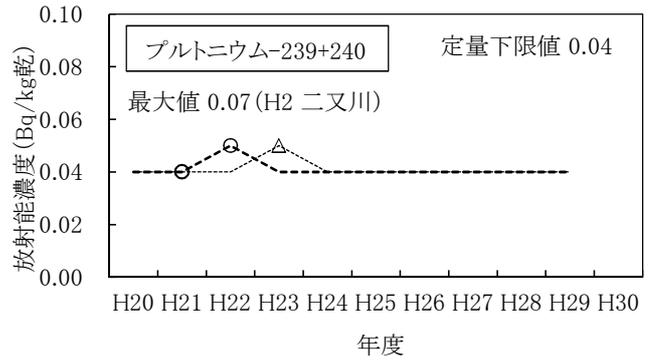
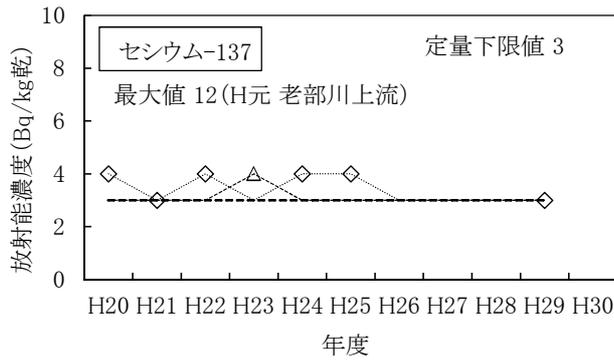
これまで報告書では、機器分析及び放射化学分析結果及び平常の変動幅との比較について、表を用いて説明してきた。しかし、東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所事故後、その影響についてモニタリング結果を用い県民へ分かりやすく情報提供することは重要であり、また、原子力施設から放出された放射性物質の蓄積状況を把握するために、その放射能濃度の推移を示すことも、結果を評価（解釈）する上で重要であると考えている。

以上を踏まえ、放射性物質の蓄積状況を把握するための試料については今後、放射能濃度の推移をグラフ化し報告書（データ集）に掲載することとする（掲載対象は下表のとおり）。また、機器分析及び放射化学分析結果について、平常の変動幅を外れた原因が過去の大気圏内核実験に起因する放射性物質の自然変動等によるものと考えられた場合、本グラフを参照し説明に用いる。

表 掲載する試料及び対象核種

試料（地点数）	対象核種	備考	
原子燃料サイクル施設	河底土（4）	セシウム-137 プルトニウム-239+240 ウラン	
	湖底土（4）	セシウム-137 ストロンチウム-90 プルトニウム-239+240 ウラン アメリカシウム-241	プルトニウム-238 については、平常の変動幅が設定されていないこと、キュリウム-244 については、これまでの測定値が全てNDであったため、グラフの作成を省略。
	表土（6）	セシウム-137 ストロンチウム-90 プルトニウム-239+240 ウラン アメリカシウム-241	プルトニウム-238 については、平常の変動幅が設定されていないこと、ヨウ素-129、キュリウム-244 については、これまでの測定値が全てNDであったため、グラフの作成を省略。
	海底土（4）	プルトニウム-239+240 アメリカシウム-241	プルトニウム-238 については、平常の変動幅が設定されていないこと、セシウム-137、ストロンチウム-90、キュリウム-244 については、これまでの測定値が全てNDであったため、グラフの作成を省略。
東通原発	表土（5）	セシウム-137 プルトニウム-239+240	
	海底土（3）	プルトニウム-239+240	セシウム-137 については、これまでの測定値が全てNDであったため、グラフの作成を省略。
RFS	表土（6）	セシウム-137	

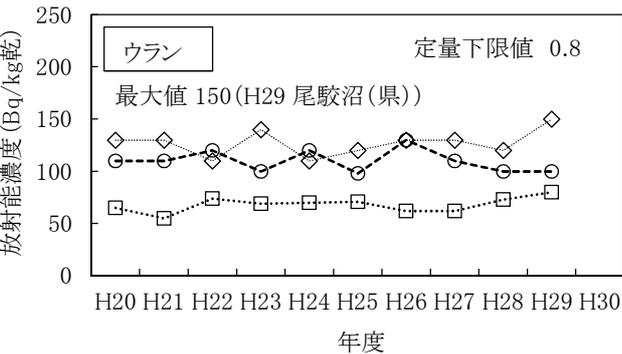
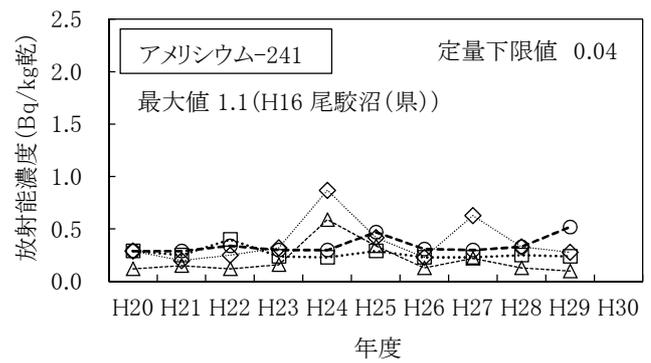
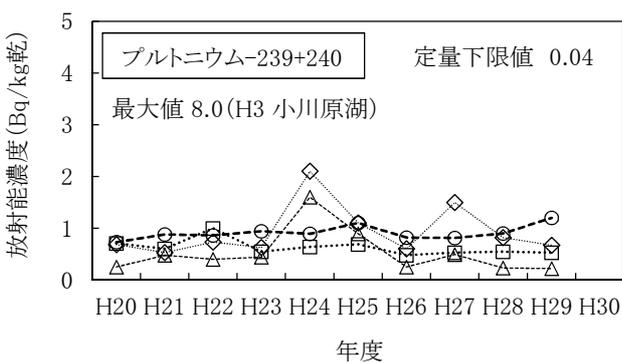
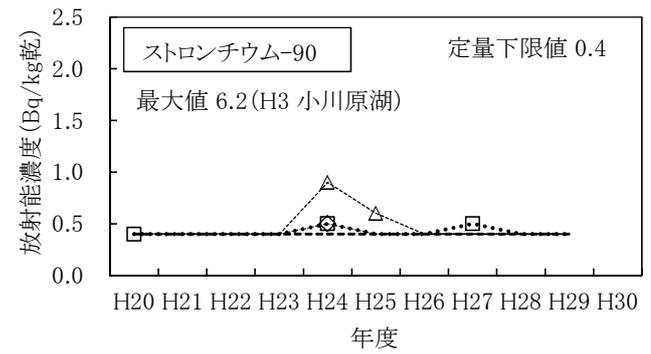
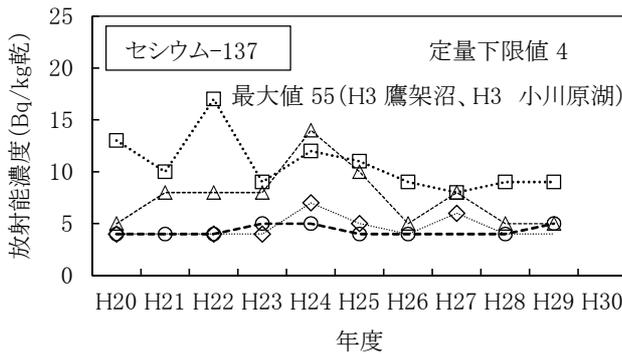
○図1-1 河底土中の放射能濃度の推移



(凡例)  
 ●◇●●●● 老部川上流  
 ●●●●●● 老部川下流(県)  
 ●●●●●● 老部川下流(事業者)  
 ●●●●●● 二又川

- ・マーカーの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

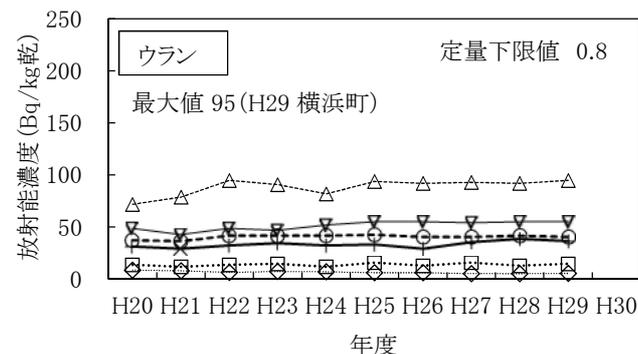
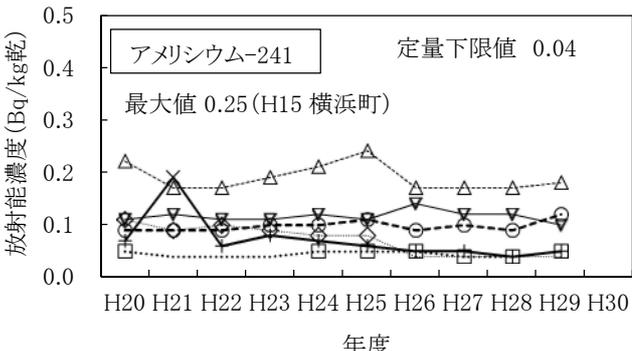
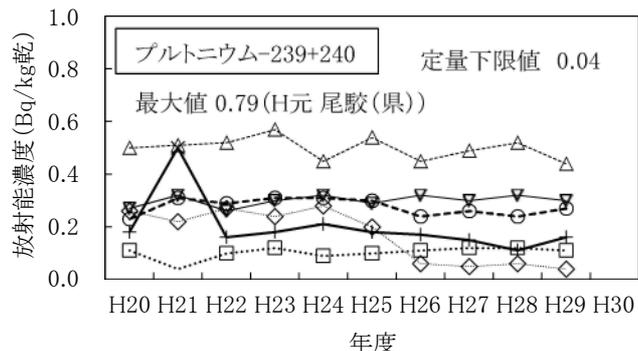
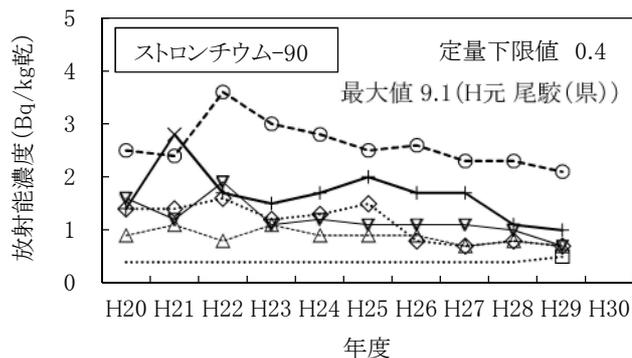
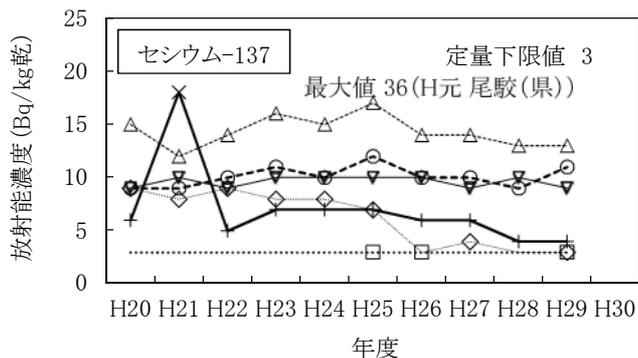
○図1-2 湖底土中の放射能濃度の推移



(凡例)  
 ●◇●●●● 尾駱沼(県)  
 ●●●●●● 鷹架沼  
 ●●●●●● 小川原湖  
 ●●●●●● 尾駱沼(事業者)

- ・キュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカーの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

○図1-3 表土中の放射能濃度の推移

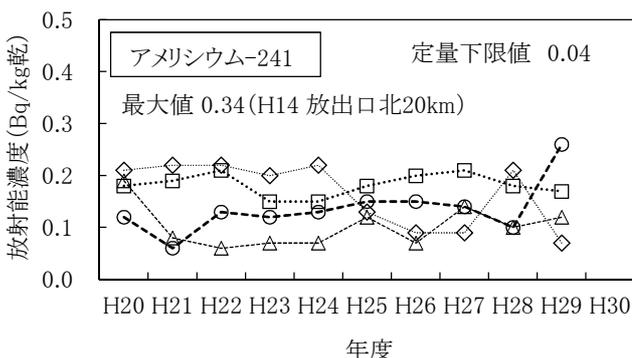
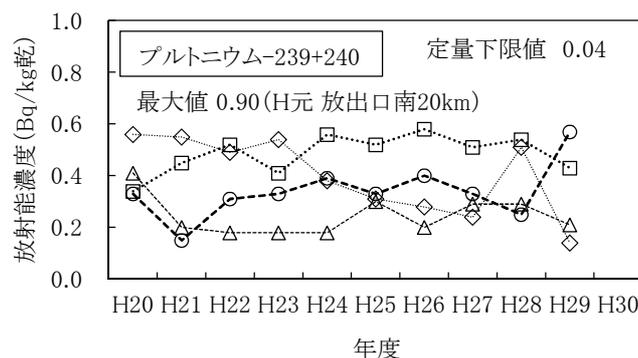


(凡例)

.....◇.....	尾駈(県)	.....□.....	千歳平
.....△.....	横浜町	.....○.....	尾駈(事業者)
.....▽.....	千樽	.....+.....	比較対象(青森市)

・ヨウ素-129及びキュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。  
 ・マーカーの無い箇所はNDを、「×」は、採取場所が通常の場所からずれていたと考えられたことから、平常の変動幅の設定に用いないこととした測定値を示す。  
 ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

○図1-4 海底土中の放射能濃度の推移

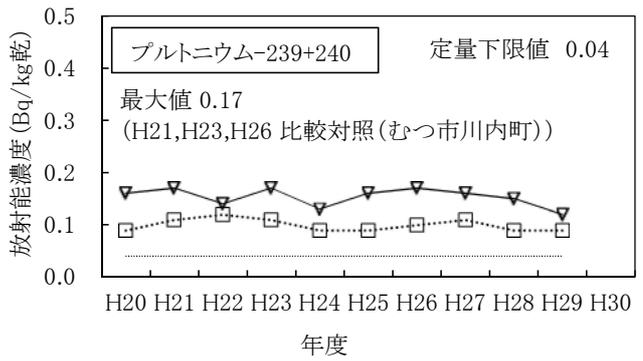
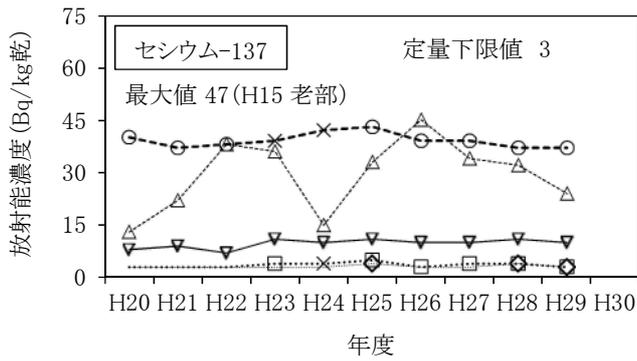


(凡例)

.....◇.....	放出口付近(県)	.....□.....	放出口北20km
.....△.....	放出口南20km	.....○.....	放出口付近(事業者)

・セシウム-137、ストロンチウム-90、キュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。

○図2-1 表土中の放射能濃度の推移

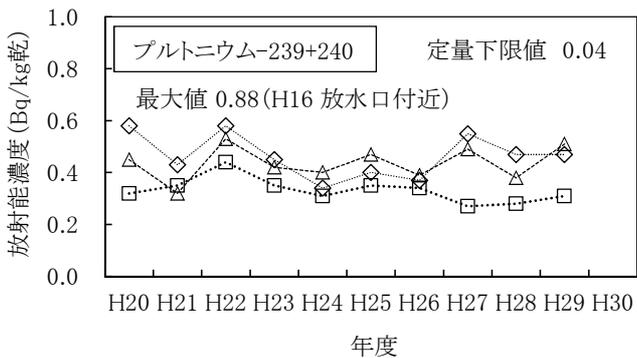


(凡例)

- .....◇..... 周辺監視区域境界付近
- .....△..... 敷地境界付近
- .....▽..... 比較対照 (むつ市川内町)
- .....□..... 小田野沢
- .....○..... 老部

・マーカーの無い箇所はNDを、「×」は、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が認められたことから、平常の変動幅の設定に用いないこととした測定値を示す。

○図2-2 海底土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- .....◇..... 放水口付近(県)
- .....△..... 放水口沖南2km
- .....□..... 放水口沖北2km

・セシウム-137については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。

○図3-1 表土中の放射能濃度の推移

